

平成29年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山市立堀川小学校
 種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()
 所在地 〒939-8081
富山県富山市堀川小泉町一丁目13-10
 E-mail horikawasho@city.toyama.lg.jp
 Website http://swa.toyama-city-ed.jp/horikawa-e
 児童生徒数 男子 291名 女子 267名 合計 558名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告活動

月	日(曜日)	内 容
4	10日(月)	近隣ファミリー会①
	14日(金)	児童集会①「入学おめでとう集会」
5	10日(水)	BFCバッジ授与式・防火教室(5年生)
	26日(金)	富山ESD講座運営委員会(富山市役所)
6	2日(金)	第88回教育研究実践発表会(1日目)
	3日(土)	第88回教育研究実践発表会(2日目)
	8日(木)～	ふれあい看護体験(6年生)
	9日(金)	
	15日(木)	防犯パトロール隊との顔合わせ会
7	3日(月)	近隣ファミリー会②
	5日(水)	児童集会②
	7日(金)	地域教育推進協議会
	25日(火)	BFC防火の集い(5年生)
8	1日(火)	ユネスコ平和の鐘をならそう運動(6年生)
	1日(火)	地域教育懇談会
	～3日(木)	
	12日(土)	東海・北陸ユネスコスクール交流会
9	6日(水)	シェイクアウト避難訓練
	28日(木)	堀川校下敬老会(2年生)
10	4日(水)	劇団四季「こころの劇場」ミュージカル鑑賞
	5日(木)	児童集会③
	22日(日)	堀小ふれあいフェスティバル
11	2日(木)	植樹体験(4年生)
	16日(木)	児童集会④
	24日(金)	三世代交流集会(2年生)

	29日(水)	E S D実践発表会
12	2日(土)	第9回ユネスコスクール全国大会
	4日(月)	近隣ファミリー会③
	8日(金)	地域教育推進協議会
1	5日(金)	E S D研究会
	18日(木)	E S D富山シンポジウム(4年生)
	27日(土)	富山E S D講座運営委員会(市体育文化センター)
2	6日(火)	食品ロス削減に向けた講座(4年生)
	13日(火)	サルベージ・パーティー(4年生)
	17日(土)	イタイイタイ病を考える県民フォーラム(5年生)
	18日(日)	学習発表会(学級ごとに一人ひとりが学びを発表)
	28日(水)	くらしと災害について講演(5年生)
3	5日(月)	近隣ファミリー会④
	9日(金)	児童集会⑤「卒業を祝う集会」

3. 活動内容

(1) 活動概要

本校は、「自主創造—くらしをみつめ、追究する子ども—」を教育目標に掲げている。「追究」とは、生きることそのものであり「子どもが身の回りの人、自然、文化、社会などの対象に出会うか、あるいは何らかの出来事との出会いによって、自己の在り方をみつめ、見直し、生きる構えを深めていくこと」と考えている。この考えは、E S Dの基本的な考え方「持続可能な社会の実現を目指し、子ども一人ひとりが世界の人々や将来の世代、また、環境との関係性の中に生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育を展開する」と目指す方向は同じであると考えている。そのため、子どもが一日のくらしを送る中で、各種教育活動(朝活動、くらしの時間、授業、自主活動、地域活動)を一連のものとして意味付けながら、社会的資質や行動力を高めていく子どもを目標とした。

具体的には①環境に係わる活動、②社会参画の基礎を養う教育③地域とのつながりに係わる活動を行った。

① 環境に係わる活動(朝活動、自主活動等)

毎朝約20分間、「朝活動」に取り組んでいる。発達段階や子ども一人ひとりの興味・関心を生かしながら個性を発揮した活動である。落ち葉掃きやトイレの清掃等、身の回りの環境の維持・保全だけでなく、廊下の看板づくりや、花壇、野菜畑を作ったりするなど、利用する人、目にする人の立場を考え、多くの人によりよい生活を送れるよう創造的活動に取り組んでいる。

また「自主活動」では、子ども自らの発想による子どもの手による営みの場の一つとして時間を設けている。その中で、登下校路の安全やあいさつをよびかける看板や花壇にアーチを作るなど、子どもたちが環境に自ら働きかけることができる時間を日々の生活の中で取り組めるよう位置付けている。



朝活動の様子

② 社会参画の基礎を養う教育（授業）

各学年の教科学習を基に発展的に取り組んでいる。今年度は、第4学年社会科「佐伯宗義がのこしたもの」の学習から、交通環境学習に取り組んだ。子どもたちは、今と昔の交通の変遷を知ること、公共交通と自動車の盛衰から、自分たちの生活の利便性と自然環境への負担を考えることができた。また、交通がもたらす地域の活性化や、高齢者等の交通弱者の必要性から、公共交通の役割や働きを理解することができた。学習で考えたことを地域や保護者の人に呼びかけることができた。



ESDシンポジウムでの発表

③ 地域とのつながり係わる活動（地域活動）

年に2回行われる地域教育推進協議会を基盤にしながら、地域と手を取り合いながら学校教育の充実を図っている。

具体的な活動として、夏休み中の各町内で近隣ファミリー活動や地域教育懇談会がある。また、三世代交流集会や敬老会、堀小ふれあいフェスティバル等の学校行事を生かしながら地域と交流する機会を設けたり、地域の人材を生かした学習を展開したりするなど、地域との交流を行うことで、子どもたちが地域の一員としての意識や態度が醸成されることを願い、取り組んでいる。



くらしと災害についての講演会

（2）活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバル	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（朝活動、自主活動）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

各教科や発達段階に応じて学年のテーマを決めて取り組んでいる。毎年、学年のテーマを見直すことで、改善点を次年度に生かしている。また、昨年度の取組をESDルームに掲示し、活動の見通しがもてるようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

各学年にESD推進担当を据え、ESD推進チームを編成している。また、ESDルームを開設し、子どもたちが学習したことを発信できる環境を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題

6月の教育研究実践発表会と11月のESD研究発表会を行っている。研究授業と協議会を通して、教育活動の質の向上に努めている。

成果：子どもが自ら見つけた問題を大切に学習展開していくことで、子どもが主体的に考え、取り組む。

課題：事象（人々、社会、自然等）が働きかける子どもの見方・考え方・感じ方・行い方の高まりを捉えるための視点や学習の在り方。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動の成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果

6月の教育研究実践発表会と11月のESD研究発表会を行ったり、ESDシンポジウムに参加したりすることで、学校教育に携わる方へESDについての関心を高めてもらえるよう努めている。

- ⑥ 学校以外の団体との共働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター。ESDコンソーシアムとの連携など）

6月の教育研究実践発表会と11月のESD研究発表会、1月の研究会等、指導助言や学習活動を充実するために協力いただくなど、様々な形でネットワークの形成に努めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

県内外のユネスコスクールの研究発表や研究会に参加することで、ネットワークの形成に努めている。今後もネットワークづくりを一層進めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

ESD パスポートとボランティア活動（学校、地域）や委員会活動と連携を諮っている。その成果として、子どもたちが学校内での活動だけではなく、地域の公園や歩道橋、駅前周辺を清掃するなど、進んで働きかけたり、地域の方と協力して資源回収を行ったりするなど、子どものボランティア精神が育まれており、地域の方にもESDについて知ってもらう機会になっている。

⑨ 平成30年度の活動計画

平成29年度をベースにしながら、平成30年度も6月教育研究実践発表会、11月ESD研究発表会を行う予定である。また、学校行事や各学年の教科の発展に応じて、更に充実した活動になるよう進めていく予定である。